

第 1 入間市の概要



1 位置及び地勢

本市は、都心から40キロメートル圏に位置する緑に恵まれたまちである。面積は、44.69平方キロメートルで、東西9.3キロメートル、南北9.8キロメートルの菱形をなしており、周囲は、埼玉県所沢市、狭山市、飯能市及び東京都青梅市、瑞穂町にそれぞれ接している。

市域全体は、海拔60メートルから200メートルのややなだらかな起伏のある台地と丘陵からなり、市東南端と西北端には、それぞれ狭山丘陵と加治丘陵とがあり、市域の約10分の1を占める茶畑とともに緑の景観を保っている。

また、市の西北部には荒川の主流である入間川が流れ、中央部に霞川、南部に不老川がそれぞれ東西に流れ、優れた景観をなしている。

地質は、地表が軽い埴質壤土で、地下は関東ローム層と呼ばれる砂壤土質の洪積火山灰土でそれぞれ形成され、肥沃な地味は茶樹、野菜等の栽培に適している。



2 沿革

入間市の市制施行は、昭和41年11月1日であったが、その歴史はかなり古くまでさかのぼることができる。すでに、縄文時代に先人が住みついていたことは縄文式土器の発掘によって明らかにされており、その中でも坂東山遺跡は最大で住居跡や土器等が数多く発掘されている。

中世においては、武士団が勢力をもち入間市でも村山党の金子氏、宮寺氏及び丹党の加治氏などが武蔵武士団の一員として活躍した。この時代の史跡として瑞泉院には、金子氏一族の宝篋印塔がみられ、高正寺にも巨大な板碑が遺されている。

江戸時代当地方は、天領、藩領、旗本領と支配が入り混じっていたものの経済活動は活発化していった。特に江戸末期において扇町屋は、穀物市や木綿市が立ち、地域経済の拠点として栄えた。

明治期に入り、現在の入間市の原型ともいえる町村（豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村、東金子村、元加治村、元狭山村）が成立し、また繊維工業のめざましい発展がみられた。戦後、町村合併が促進され、昭和31年9月30日、豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村及び西武町の一部（旧東金子村）をもって合併し武蔵町が発足した。その後、昭和33年10月、元狭山村の一部を合併し、昭和41年11月1日、埼玉県で25番目の市として「入間市」が誕生した。さらに、昭和42年4月1日、西武町との合併もなり現在の市域を構成するとともに首都圏近郊都市としての行政基盤が確立された。

3 人口動態

(1) 人口・世帯の推移（各年1月1日）

入間市統計書

区分 年	面積 km ²	世帯数 世帯	人口			世帯当り 人数 人／世帯	人口密度 人／km ²
			増加数 人	増加率 対前年%			
H24	44.74	61,113	150,651	-353	-0.23	2.47	3,367
H25	44.74	61,162	150,367	-284	-0.19	2.46	3,361
H26	44.74	61,804	150,216	-151	-0.10	2.43	3,358
H27	44.69	62,439	149,952	-264	-0.18	2.40	3,355
H28	44.69	63,112	149,593	-359	-0.24	2.37	3,347
H29	44.69	63,774	149,124	-469	-0.31	2.34	3,337
H30	44.69	64,436	148,723	-401	-0.27	2.31	3,328
R1	44.69	65,314	148,442	-281	-0.19	2.27	3,322
R2	44.69	65,864	147,731	-711	-0.48	2.24	3,306
R3	44.69	66,516	147,166	-565	-0.38	2.21	3,293

令和3年1月1日現在の人口は147,166人で、減少傾向にあるが、世帯数は増加している。

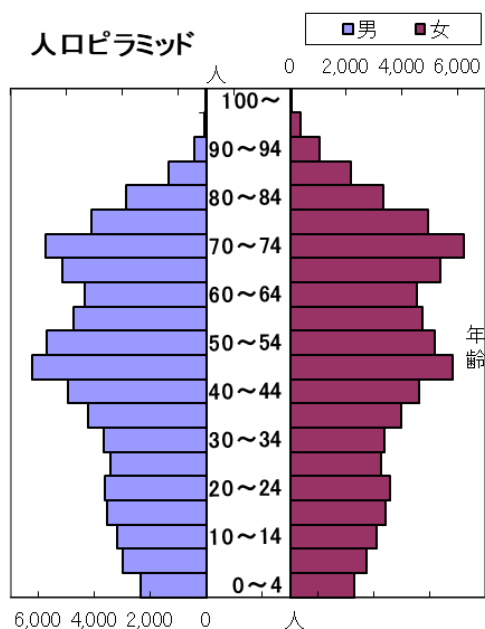
※平成27年以降の面積は、国土地理院発表の全国市町村別面積による変更

(2) 人口動態推移 (単位：人) 入間市統計書

区分 年	自然動態			社会動態			増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
H24	1,079	1,097	-18	5,516	5,782	-266	-284
H25	1,038	1,123	-85	5,379	5,445	-66	-151
H26	1,009	1,193	-184	5,211	5,291	-80	-264
H27	1,035	1,229	-194	5,241	5,406	-165	-359
H28	963	1,266	-303	5,116	5,282	-166	-469
H29	961	1,285	-324	5,206	5,283	-77	-401
H30	894	1,340	-446	5,462	5,297	165	-281
R1	861	1,385	-524	5,307	5,494	-187	-711
R2	761	1,434	-673	5,227	5,119	108	-565

(3) 階級別人口 (令和2年1月1日)

年 齢	男	女	合 計	構成比
年少人口				
0～4	2,360	2,309	4,669	3.17
5～9	2,973	2,722	5,695	3.87
10～14	3,201	3,106	6,307	4.29
計	8,534	8,137	16,671	11.33
生産年齢人口				
15～19	3,563	3,408	6,971	4.74
20～24	3,638	3,570	7,208	4.9
25～29	3,432	3,254	6,686	4.54
30～34	3,670	3,377	7,047	4.79
35～39	4,246	3,991	8,237	5.6
40～44	4,969	4,643	9,612	6.53
45～49	6,227	5,809	12,036	8.18
50～54	5,736	5,186	10,922	7.42
55～59	4,774	4,759	9,533	6.48
60～64	4,350	4,527	8,877	6.03
計	44,605	42,524	87,129	59.2
老年人口				
65～69	5,145	5,370	10,515	7.14
70～74	5,757	6,223	11,980	8.14
75～79	4,104	4,957	9,061	6.16
80～84	2,878	3,362	6,240	4.24
85～89	1,364	2,180	3,544	2.41
90～94	446	1,052	1,498	1.02
95～99	80	376	456	0.31
100～	6	66	72	0.05
計	19,780	23,586	43,366	29.47
合 計	72,919	74,247	147,166	100



(4) 死因別の年次状況 (単位：人) 埼玉県保健統計年

区分 年	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	大動脈瘤及び大動脈解離	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
H24	1,093	2	338	19	1	201	103	14	105	12	3	15	27	46	20	27
男	591	1	202	12	0	107	59	7	52	12	1	9	16	9	13	16
女	502	1	136	7	1	94	44	7	53	0	2	6	11	37	7	11
H25	1,127	1	352	13	2	176	114	11	121	14	2	16	27	47	22	33
男	633	1	219	7	0	88	61	8	69	11	2	8	19	8	12	21
女	494	0	133	6	2	88	53	3	52	3	0	8	8	39	10	12
H26	1,198	0	372	15	6	203	96	9	117	18	2	16	14	53	23	36
男	652	0	216	6	3	106	49	5	65	13	0	11	8	10	15	24
女	546	0	156	9	3	97	47	4	52	5	2	5	6	43	8	12
H27	1,219	0	413	18	3	211	94	14	129	11	0	12	16	47	10	25
男	699	0	262	8	3	116	48	7	79	8	0	7	9	13	6	17
女	520	0	151	10	-	95	46	7	50	3	0	5	7	34	4	8
H28	1,272	1	397	18	8	204	107	16	139	14	1	17	22	83	28	28
男	677	1	229	11	4	108	46	9	79	11	0	11	9	23	18	22
女	595	0	168	7	4	96	61	7	60	3	1	6	13	60	10	6
H29	1,268	3	400	14	15	212	94	21	104	20	2	13	21	71	25	16
男	708	1	256	10	9	109	53	14	58	12	1	5	13	21	18	10
女	560	2	144	4	6	103	41	7	46	8	1	8	8	50	7	6
H30	1,329	3	401	14	10	212	7	15	121	21	3	17	23	91	27	28
男	719	1	219	8	5	108	2	9	70	20	1	12	12	23	18	22
女	610	2	182	6	5	104	5	6	51	1	2	5	11	68	9	6

※死亡総数には選択死因以外の死亡数を含む。

